

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

1. 研究課題

アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と「地域」創出

Trans-Regional Spread of Religious Cultures and their Creating “Regions” in Asia

2. 研究代表者氏名

稲葉 穰・中西 竜也

INABA, Minoru / NAKANISHI, Tatsuya

3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(1年目)

4. 研究目的

古来、西アジア、南アジア、内陸アジア、東アジアでは、イスラームや仏教などの諸宗教と関わる諸思想・諸文化が多方向的に越境波及し、各地に様々な作用を及ぼしてきた。本研究班では、当該諸思想・諸文化が、ときに超地域的な思潮・流行文化、あるいは時代精神のようなものさえも形成しながら、他方で地域化したり、地域特性やローカル・アイデンティティの創造・想像に寄与したりもしてきた、そのダイナミックな様相を議論する。たとえば、南アジアに起源して西アジアはもとより、中央アジア、さらには中国にまで伸展したスーフィズムの一派、ナクシュバンディーヤ・ムジャッディディーヤの各地における展開実相やインパクトを考察する。また、その考察の基礎を共有するために、同派の根本経典、名祖アフマド・スィルヒンディー（1624年没）のペルシア語書簡集など、ムジャッディディーヤ関係の諸文献を会読・吟味する。こうした探求を通じて、特定の宗教や地域に関する本質主義的な見方、あるいはそれと表裏する軽率な「異文化」の土着化・排除の要求を相対化する視野を開拓し、これを糸口としてグローバル化時代の「共生」の問題にも思いを馳せたい。

Various ideas and cultures related to religions such as Islam and Buddhism have multi-directionally and transregionally spread in Asia (West, South, Central, and East Asia). We examine how these ideas and cultures formed transregional intellectual and cultural trends, or something like the spirit of the age, on the one hand, and adapted to a certain area, or contributed to the creation and imagination of “regions,” on the other hand. For example, we focus on the Naqshbandiyya-Mujaddidiyya, a Sufi order, which expanded from South Asia to Central and East Asia as well as West Asia, and investigate what developments and impacts this Sufi order had in each area. In order to share a basis for this study, we read and discuss literatures of Mujaddidiyya including Persian epistles written by Ahmad Sirhindi (d.1624),

the eponym of the Sufi order in question. Through such an exploration, we aim at cultivating a perspective to relativize the essentialist views regarding a certain religion and region, accompanied by imprudent demands for the indigenization or exclusion of “foreign” cultures. Furthermore, we want to ponder on the problem of “cultural coexistence” in our globalization era.

5. 本年度の研究実施状況

令和5年度は、全17回の研究会を開催した。うち6回は、アフマド・スィルヒンディー『書簡集』（ペルシア語）の会読を行い、訳注作成作業を進めた。スーフィズムの思想・体験を記した当該テキストは極めて難解で、読み進めた分量はそれほど多くないが、そのぶん討論に多くの時間を割き、テキストの精密な読解を心掛けた。宗教文化の越境的波及の代表的な事例であるムジャッディディーヤ派のスーフィズムに関する新しく深い知見を参加者のあいだで蓄積・共有し得た。のこりの11回は、班員の研究報告会（都合7回、うち2回は英語による）や海外からのゲスト・スピーカーの講演会（都合4回、いずれも英語による）を開催した。個々の研究報告の具体的内容は多岐に渡ったが、総じて、ある「地域」を越えた宗教文化現象が当該「地域」の形成や想像に如何なるインパクトを与えたかについて豊富な事例、鋭い洞察を提供したといえる。

6. 本年度の研究実施内容

- 2023-04-14 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 ムジャッディディーヤ派が中国西北部にもたらしたもの——「スーフィズム四大流派」言説と中国ムスリム・アイデンティティ 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2023-04-28 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2023-05-12 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2023-05-26 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 An Examination of Variations on the Buddhist Doctrine of Momentariness and Their Transmission to Early Islamic Theologians: Sources, Methods, and Arguments for Establishing a Philosophical Genealogy of Early Occasionalism 発表者 Browning, Jason Indiana University Bloomington、京都大学人文科学研究所(外国人共同研究者)
- 2023-06-09 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 Marginal Sources for the Study of Egyptian Cities and Towns (13-18th centuries) 発表者 Magdi Guirguis, Kafrelsheik University; The Archaeological Mission in the Atrek Valley, New Discoveries 発表者 Rocco Rante, Musée du Louvres

- 2023-06-23 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
ィー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2023-07-14 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 近代オスマン朝における
同化・適応がもたらしたもの：アブデュルハミト 2 世期におけるハミディイ
ェ連隊・クルド・イエズィーディ 発表者 岩本佳子 京都大学文学研究科
- 2023-07-28 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
ィー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2023-09-22 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 Discovery of cotton fibres
in some pre-Islamic paper from the Tarim Basin (Xinjiang, China) 発表者 慶
昭蓉 京都大学白眉センター
- 2023-10-13 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
ィー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2023-10-27 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
ィー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2023-11-10 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 Preservation and
Revitalization of Cultural Heritage in Central Asia 司会 慶昭蓉 京都大学白眉
センター; One Century of DAFA: Achievements and Perspectives 発表者
Henri-Paul FRANCFORT, Institut de France; The Central Asian branch of
ArScAn (Archaeology and Science of Antiquity, CNRS-University Paris-
Nanterre):Main Expeditions and Current Research 発表者 Corinne
DEBAINE-FRANCFORT, Centre national de la recherche scientifique;
Gāndhārī Documents from South and Central Asia: New Discoveries and
Research 発表者 Stefan BAUMS, Ludwig-Maximilians-Universität München
- 2023-11-27 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アラビア文字墓碑銘を読
み解く——12～20 世紀の事例から 発表者 井谷鋼造 京都大学文学研究科(名
誉教授)
- 2024-01-26 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 バルカンにおけるサル・
サルトゥク廟の現状 発表者 今松泰 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研
究研究科
- 2024-02-09 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 Naqshbandi-Wahhabi
rivalry as a major force in the modernization of the Islamic world 発表者
Michael Leezenberg, University of Amsterdam
- 2024-02-12 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 イランにおける聖地・聖
廟の発展と変容 —マシュハドとゴムを事例に— 発表者 杉山隆一 京都橘
大学
- 2024-03-08 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 司会 中西竜也 京都大

学人文科学研究所 Contextualising al-Bīrūnī's Taḥqīq mā li-l-Hind as a source for the cultural history of early medieval Panjab 発表者 Noémie Verdon, Maître Assistante, Ambizione FNS, Department of Slavic and South Asian Studies, University of Lausanne; Visualizing Afghanistan: Images and narratives of the Bamiyan Buddhas in twentieth-century Japan 発表者 Shamim Homayun, Australian National University, School of Archaeology and Anthropology

7. 共同研究会に関連した公表実績

人文研アカデミー連続講座として、9月29日、10月13、20、27日に「読んで旅して考える——文献研究とフィールドワーク」を開催した。

8. 研究班員

所内

稲葉穰、中西竜也、慶昭蓉、BROWNING, Jason、FORTE, Erica

学内

帯谷知可(東南アジア地域研究研究所)、今松泰(アジア・アフリカ地域研究研究科)、磯貝健一(文学研究科)、對馬稔(文学研究科)、東長靖(アジア・アフリカ地域研究研究科)、岩本佳子(文学研究科)、笹原健(文学研究科)、山口元樹(アジア・アフリカ地域研究研究科)、原陸郎(アジア・アフリカ地域研究研究科)、笹原健(文学研究科)、荻原裕敏(非常勤講師)

学外

和田郁子(岡山大学)、真下裕之(神戸大学)、伊藤隆郎(神戸大学)、小倉智史(東京外国語大学)、矢島洋一(奈良女子大学)、大津谷馨(東京外国語大学)、内記理(愛知県立大学)、宮本亮一(奈良大学)、川本正知(奈良大学)、岩井俊平(龍谷大学)、杉山雅樹(京都外国語大学)、森山央朗(同志社大学)、二宮文子(青山学院大学)、杉山隆一(京都橘大学)、小澤一郎(立命館大学)、檜山智美(国際仏教学大学院大学)、岩尾一史(龍谷大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	7	3	0	0	0	60	6	0	0	0
		(3)	(1)	(0)	(0)	(0)	(21)	(1)	(0)	(0)	(0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	4	13	0	1	1	2	68	0	1	1	19
		(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(7)	(0)	(0)	(0)	(0)
国立大学 (内女性)	7	8	0	0	2	1	41	0	0	0	1
		(4)	(0)	(0)	(2)	(0)	(8)	(0)	(0)	(0)	(7)
公立大学 (内女性)	1	1	0	1	0	0	4	0	4	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学 (内女性)	9	12	0	1	0	1	74	0	4	0	1
		(2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(13)	(0)	(4)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		(0)	(0)	(0)
民間機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関 (内女性)	1	6	6	0	0	0	6	6	0	0	0
		(3)	(3)	(0)	(0)	(0)	(3)	(3)	(0)	(0)	(0)
その他 ※ (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	23	47	9	3	3	4	253	12	9	8	21
		(14)	(4)	(1)	(2)	(0)	(52)	(4)	(4)	(7)	(0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月	論文名	発表者名
1	Bulletin of the Asia Institute 31	1	R5.9	Letters from Kadagstān	宮本亮一
2	オリエント 66-1	1	R5.9	カローシュティー文字の形 態からみたガンダーラ彫刻 の制作年代	内記理
3	Journal of Persianate Studies Volume 16 Issue 1	1	R5.10	The Howz-e Shamsi and the Making of an Islamic Sacred Site in the Urban Space of Delhi	Ayako Ninomiya (二宮文子)
4	對法雜誌 4	1	R5.12	(講演録)中央アジアの仏教 寺院を復元するー石窟構造、 美術、そして説一切有部の二 分派ー	檜山智美
5	京都橘大学女性歴史文 化研究所紀要 32	1	R5.12	20 世紀イランを生きた女性 シーア派ウラマー ノスラ ト・アミーン	杉山隆一
6	紀要 (神戸大学文学部) 51	1	R6.3	アブル・ファズル著『アーイ ーニ・アクバリー』訳注 (12)	真下 裕之 監修、二宮 文子・真下 裕之・和田 郁子訳注
7	西南アジア研究 97	1	R6.3	マスジドの壁面に残された 勅令	井谷鋼造
8	愛知県立大学日本文化 学部論集 15	1	R6.3	タキシラ探索記ー2023 年度 のパキスタン現地調査ー	内記理
9	史窓 81	1	R6.3	アフマド・イブン・ファドル・ アッラー・ウマリー著『高貴 なる用語の解説』訳注 (14)	谷口淳一, 伊藤隆郎 ほか
10	東洋史研究 82	1	R6.3	『『珍貴の書』における五行 説解釈ーイル・ハーン朝期に おける中国文化解釈の一側 面ー	對馬稔

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行 年月	出版社名	国際 共著
1	Frederic Bauden 編 The Mamluk Sultanate and Its Periphery	Takao Ito (伊藤隆郎) ("A Collection of Histories of the Mamluk Sultanate's Syrian Borderlands")	R5.6	Peeters Pub & Booksellers	
2	Kazuo Morimoto、 Sajjad Rizvi 編 Knowledge and Power in Muslim Societies: Approaches in Intellectual History	Tatsuya Nakanishi (中 西竜也) ("Ma Dexin's Criticism of Saint Veneration: "Chinese"- Flavored Islam Formed by a Denominational Conflict ")	R5.6	Gerlach Press	
3	小松久男編 中央ユー ラシア文化事典	井谷鋼造 (「セルジュー ク朝」「メルヴ」)	R5.6	丸善出版	
4	朱玉麒主編『西域文史』 第 17 輯	慶 昭蓉(「漢譯佛經中的 薄知國——婆伽梨、薄伽 利與博喝羅」)	R5.6	科学出版社	
5	榮新江・朱玉麒主編『黃 文弼所獲西域文書』上 下巻	慶 昭蓉(「胡語文書：二、 龜茲語文書」「胡語文書： 九、阿拉伯文文書」「胡語 文書：十、未比定語言的 文書」)	R5.6	中西書局	
6	永田雄三編 トルコ史	井谷鋼造 (第 1 章「ルー ム・セルジューク朝、モ ンゴル支配、ベイリク期 のアナトリア」)	R5.8	山川出版社	
7	稲本泰生編 釈迦信仰 と美術——作品解釈の 新視点	内記理 (「ガンダーラ地 方における初期の仏伝 図の探究—ラニガト寺 院址出土浮彫画像帯の 分析から—」)	R5.8	思文閣出版	

8	アジア人物史 3: ユーラシア東西ふたつの帝国	岩尾一史 (「天孫から転生へーチベットにおける権威の継承とその変化」)	R5.8	集英社	
9	石松日奈子監修・責任編集 世界遺産大シルクロード展	岩尾一史 (「羽人文瓦当」等合計 11 点)	R5.9	東京富士美術館	
10	佐川英治編 《史学会シンポジウム叢書》君主号と歴史世界	小倉智史 (「スラトラナ攷——神の鎧か西夷の号か」)	R5.10	山川出版社	
11	小松久男編 モンゴル帝国のユーラシア統一 (アジア人物史 5)	東長靖 (「イスラーム思想文化の輝き」)	R5.10	集英社	
12	佐藤昇編 歴史の見方・考え方 2: 史料から広がる歴史学	真下裕之 (「ジャハーンギールと『ジャハーンギール・ナーマ』: ムガル帝国君主が書いた歴史書」)	R5.10	山川出版社	
13	佐藤昇編 歴史の見方・考え方 2: 史料から広がる歴史学	伊藤隆郎 (「女奴隷から女王へ」)	R5.10	山川出版社	
14	小松久男編 アジア人物史 5 モンゴル帝国のユーラシア統一	二宮文子 (「インドのイスラーム化とスーフィー」)	R5.10	集英社	
15	赤堀雅幸編 スーフィズムに見る音と身体の技法	東長靖 (「神秘体験とその表現: エリートと民衆、個人と組織のあいだ」)	R6.3	上智大学イスラーム地域研究所	
16	外村中・稲本泰生編 「見える」ものや「見えない」ものをあらわす — 東アジアの思想・文物・藝術	内記理 (「仏像の出現について」)	R6.3	勉誠社	

17	野田仁編 イスラームからつなぐ3 翻訳される信頼	中西竜也（『天方正学』、アラビア語韻文の敢然たる翻訳——19 世紀中国ムスリムによる非ムスリムとの信頼関係の構築）	R6.3	東京大学出版会	
18	今枝由郎・西田愛・岩尾一史 古代チベット仏教伝道文学と葬儀の変容：中央アジア出土チベット語文献研究 Studies in Old Tibetan Texts from Central Asia vol. 3 (Studia Tibetica No. 51)	岩尾一史	R6.3	東洋文庫	
19	Fabrizio Speziale, Satoshi Ogura, eds. Imperial Historiography and the Creation of Persian Scholarship on India: The Ā'in-i Akbarī of Abū al-Faẓl (d. 1602)	Satoshi Ogura (小倉智史) (Introduction and Chapter 8 "The Ā'in-i Akbarī and Western Indology: with Special Reference to the Category of the Six Systems of Philosophy")	R6.3	東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所	

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

令和6年度も、おおむね毎月2回のペース（8月は休み）で、都合20回ほどの研究会を開催（各月にアフマド・スィルヒンディー『書簡集』の会読と、班員・ゲストの研究報告会とを一度ずつ開催）する予定である。会読は、やはり多くを読み進めるよりも精緻な理解と議論の深まりを重視するが、訳注の公表も視野に入れてある程度のスピードアップを図り

たい。そのため会読の回数を去年よりも増やして 10 回ほどにするつもりである。研究報告会は、昨年度同様 10 回ほどを見込んでいる。比較的若い班員による報告の機会を増やすとともに、機会があれば海外からのゲストによる講演会も積極的に開催したい（すでに一件は確定している）。関連する個別事例の地道な研究をさらに積み重ねる中で、「地域」の動態的・多元的・重層的な形成・想像において広域的な宗教文化の展開が果たした役割という大きな議論的枠組みの精緻化を意識した討論を深めたい。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

アフマド・スィルヒンディー『書簡集』の訳注の公表に向けて作業を続ける。また、班員が研究報告会での報告や議論をもとにして個々に論文を公表し、宗教文化の越境的波及と「地域」創造に関する論集の将来的な出版の足がかりとする。